虫や魚は難しい漢字

また、幼児にとって最も覚えやすい漢字は「鳩」とか「鶴」というような字で、これは「鳥」という字よりも覚えやすいのです。二、三歳の子どもでしたら、どんなに物覚えの悪い子どもでも「鶴」とか「鳩」という漢字は覚えられる。そういう字を覚えた後でないと「鳥」は教えていけない、というのが私の主張なのです。これは私の幼児に対する実際指導から出た結論です。「虫」とか「鳥」とか「魚」という字よりも「蟻」とか「蜂」、「鳩」とか「鶴」、また「鱒」とか「鮒」とかという漢字を幼児はいとも無造作に覚えます。「虫」という虫は存在しません。存在するのは蟻であり蜂であるわけです。鳩や蟻や鱒を理解してからでなければ、「鳥」や「虫」や「魚」というような上位概念は理解できません。だから、そういう漢字もまた教えるべきではない。これが私の考え方です。それから一とか二とか三という漢字はもっと難しいのです。蟻や鳩は二歳児なら容易に読めるようになりますが、一や二や三はなかなか読めるようになりません。これは幼児に実験してみれば容易に判ることです。「一」「二」「三」のように抽象度の高いものは幼児には理解しにくい。理解しにくいものは覚えられないのです。だから、仮名はもっと抽象度が高いわけですから、幼児にはもっと難しいわけです。「具象的なものから、だんだん抽象的なものに移って行く」というのが学習の手順であるのに、今の教育は全く逆の学習のさせ方をしているわけです。これでは子どもが困るのが当り前であります。覚えやすい時期に漢字を教えないでいて、漢字学習能力が低下してから一所懸命になって漢字を教えている。教える先生も苦労するなら、学ぶ生徒も苦労するわけです。こういう愚かなことを、私は一日も早く止めさせたいと思って、もう 20 年も前からこのことを主張しているわけですけれども、なかなか受け入れてもらえません。非常に残念に思います。

このようなわけで、私は言語学習においては幼児期が成熟期でありますから、当然この時期に漢字をどんどんと教えるようにしなかったなら子どもの能力は育たない、と思うわけであります。